

5月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和3年5月末現在〕

令和3年6月11日
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」「売上高」「収益状況」の主要3指標DIを見ると、全てで悪化した。

業種別でも、製造業・非製造業とも、「景況」「売上高」「収益状況」全てで悪化した。

今月は一部業界で改善の動きも見られたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のための、近隣自治体のまん延防止等重点措置や緊急事態宣言・県内の感染拡大市町村の指定による営業時間短縮等による売上高減少、原料や燃料の値上げによる収益減少の状況が見られた。

景況DI

製造業は、前月比で7.7ポイント悪化の-42.3ポイント、非製造業は、前月比4.1ポイント悪化の-33.3ポイント、全体では、前月比6.0ポイント悪化の-38.0ポイントとなった。

売上高DI

製造業は、前月比3.8ポイント悪化の-26.9ポイント、非製造業は、前月比25.0ポイント悪化の-37.5ポイント、全体では、前月比14.0ポイント悪化の-32.0ポイントとなった。

収益状況DI

製造業は、前月比3.9ポイント悪化の-38.5ポイント、非製造業は、前月比12.5ポイント悪化の-45.8ポイント、全体では、前月比8.0ポイント悪化の-42.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
製 造 業	学校給食パン	売上、販売価格は前年同月比で改善しているが、人手不足で人件費の単価を上げている現状やコロナ禍で前年同月は売上が大きく下がっていた事を考慮すると、実感はあまりない。当業界では人手が圧倒的に足りず、深刻な人手不足である。	
	清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県4月の清酒課税移出数量は、前年同月比111.7%であった。大きく伸びたように見えるが、前年4月がコロナ禍の影響で大きく落ち込んだためであり、コロナ禍前の前々年同月比では71.4%の減でかなり厳しい。本格焼酎については、前年同月比222.7%であったが、同じく前々年同月比では77%となっている。5月も県内で多くの自治体が感染拡大市町村に指定され、飲食店の時短営業が続き、依然厳しい見込みである。また、清酒の輸出については、県や企業間で温度差があるもののコロナ禍で国内マーケットが不安定の中で輸出に力を入れて、4月の前年同月比輸出数量(全国ベース)は、272.5%と好調であった。新型コロナウイルスの感染が落ち着いている、香港・中国が好調で、香港・中国・米国で輸出の60%以上を売り上げている。 ○県内当業界について 新型コロナウイルス感染拡大による、繰り返しの緊急事態宣言のため、外出自粛により、主な消費ルートである飲食店への売上が激減。家飲みも他県大手メーカーの安価なパック酒が主流であるが、最近では高品質の高級酒を家飲みする人が増えてきていると思われる。他県の有名酒が人気であるが、購入の選択肢に品質が高くなっている地酒をアピールしていくことが課題と感じている。また、今年の全国新酒鑑評会で9歳が金賞を受賞し、当県は全国で8位の成績で茨城の清酒の質の高さが示された。	
	納豆	土産品の売上は前年同月比で少し改善されたが、一般消費者向けは悪化している。ガソリンや原料大豆等の値上がりで、業界全体の景況は悪化している。	
	菓子	新型コロナウイルスのワクチン接種が始まった事は業界にとっては明るい材料であるが、購買力が上がらない状態である。	
	繊維工業	袋物	年間の中でも5月は売上が落ち込むが、前年と今年に関しては1週間で半分しか営業していない組合員もいる。
	木材・木材製品	製材	・第3次ウッドショック下であり、一般的に製品価格の高騰・品不足の状況である。 ・原木価格も高値が続いている。 ・住宅着工にも影響が出ている。
		県北地区プレカット	支給材加工の材料が入荷しないので、加工予定が順調に進まない。組合で受けた建設工事の価格上昇と品物不足により工事調達が難しい。上棟予定を見合わせる施主が一部出てきている。
		県央地区プレカット	深刻な木材不足が続いている。木材調達の目途が立たず、着工を延期する動きも多数出てきている。早期に打合せを終えて木材の発注をかけて、木材の入荷を待つといった状況であり、加工スケジュールも組めない状態が続いている。
	紙・紙加工品	段ボール	前年の売上が悪かった事もあり、前年同月と比較すると今年の組合員の売上はほぼ100%を超えている。しかし、前々年の数字と比較すると若干マイナスの組合員もいる。
	印刷	総合印刷	新型コロナウイルス感染症により、暮らしや経済活動の形が大きく変わってきている。催事・イベントの減少、リモートワーク、オンライン会議等々が定着してきており、「紙への印刷」需要が大きく落ち込んでいる。そして、このような状況がいつまで続くのか、業界全体の不安感は大きい。
窯業・土石製品	陶磁器	笠間の陶炎祭が2年ぶりに開催され、出店者だけではなく、産地にとっても大変喜ばしい事だった。県内外の他のイベントが中止や延期となる事が多い中、笠間市の支援で実施できた事は他のイベント開催の参考にもなるのではないだろうか。	
鉄鋼・金属	鉄鋼	売上・収益状況ともに前年同月比10~15%程度増加した。大部分の取引先業種で前年同月に比べ増加しているが、例年と比べれば、減少している。半導体製造装置関係は好調である。燃料等の価格は上昇している。亜鉛・ニッケル等の金属は値上がり、貴金属等は高値で推移している。工業用薬品価格は大きな変化はない。	
一般機器	生産用機械	対象7組合員(製造会社)の売上状況は、前年同月と比べてすべて増加となった。全体増減率は前年同月比184.6%であった。主要得意先の海外向け需要拡大に伴い、各組合員とも受注増加が顕著。売上高は前年の新型コロナウイルスの影響を払拭し、前年同月比で2倍の売上を確保した組合員もあるなど、概ね順調に推移している。	
輸送用機器	県北地区自動車部品	一部で半導体供給不足が生じている。生産高はやや上向きにあるが、まだ水面下の状況である。	

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会
令和3年5月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	水産卸	精算所取扱高は、前年同月比4.13%増加。前月同様、前年同月比では増加したものの、鮮魚(養殖含む)等これから旬を迎えるものなどは、販売に苦慮している。また、まん延防止措置等重点措置に指定された地域は営業時間の制限があるため、仲卸業者・一般買受人等はかなり厳しい状況が続いている。
	県南地区卸	食料品取り扱い業者は売上が順調に推移しているが、日用品取り扱い業者については需要の停滞等により、依然として厳しい状況に置かれている。しかしながら、総体的には売上は徐々に回復しつつある。
	セメント卸	袋セメントの出荷袋数は、前年同月比約13%の減少となった。当月に入り、建設工事不足が鮮明になっている。
小売業	県北地区共同店舗	売上は前年同月比99.1%、客数は同105.5%で、前年同月の売上を確保した店舗は46.6%であった。前年の緊急事態宣言の影響もあり、店舗ごとに売上や客数が二極化する結果となった。
	県央地区共同店舗	館全体の売上(客数)は前年同月比104%(103%)、食品99%(101%)、飲食113%(118%)、ファッション145%(143%)であった。前年5月は新型コロナウイルスの影響で休業店舗・時間短縮店舗が多かったため、前年同月比で売上増となった。前々年同月と比較すると館全体の売上(客数)は100%(98%)となっており、ほぼ同等となった。依然として、ファッション・雑貨・飲食に関しては前々年同月比で10~20%減の状況であり苦戦している店舗が目立つ。
	県南地区共同店舗	ゴールデンウィーク中は新型コロナウイルス対策を続けながらイベント等を実施したが、客数は依然として少なく、苦しい状況である。大手キッズランドの撤退もあり、更に苦戦。今後も、個人飲食店の撤退が考えられる。売上高は前年同月比で、全体105.5%、衣服100.8%、文化品167.2%、食料品94.5%、飲食92.6%、サービス126.6%となった。
	家電	新型コロナウイルス感染拡大は、自宅時間の充実を図るニーズを刺激しており、エアコン、調理家電、小物家電(トースター、サーキュレーター等)等の需要を拡大させている。コロナ禍での夏商戦を迎えるが、6月以降、家の中での熱中症を防止するため、夏本番前の家庭でのエアコン試運転提案で各店は商機を拡大させる予定である。
	燃料小売	前年同月比でガソリンの販売数量・販売価格は上昇したが、原油価格上昇分の仕入値が、販売価格に転嫁できずにいる。そのため、売上高は上がっているが、収益状況は悪化している。現在も外出自粛が求められており、依然として厳しい状況が続くと予想される。
	中古自動車	販売台数は前年同月比で83.2%と4月に続き大きく落ち込んだが、販売価格が110.3%と大幅に上昇したため、売上高は91.8%と1桁台の減少に抑えられた。売上高については、前年11月より前年同月比で10%以上の大きな落込みが続いていた。しかしながら、前年5月は新型コロナウイルスの影響を最も大きく受けた時期でもあり、前年度を更に下回る実績は、小売市場が依然厳しい環境に置かれていると分析できる。販売価格の上昇については、半導体不足による新車供給の鈍化が中古車の流通価格高騰の要因となっており、小売販売価格の上昇にも繋がっているため、利益の大きな改善には至っていない。
	食料品	食品流通業により、新型コロナウイルス感染拡大の中での食のライフラインを担っているため、売上に関しては比較的好調に推移してきた。しかし、前年の巣ごもり需要の拡大の実績の影響を受け、本年3月からは前年実績から大きく離れてしまった。当月の店頭売上は前年同月比90%以下の店舗が続出した。しかしながら、前々年同月の売上と比較するとほぼイコールの数字で推移しているため、店舗運営については大きな影響は出ていない。
	野菜・果実	当月は、野菜果実合計で前年同月比95%の取扱高となった。野菜に関しては、当月中旬に西日本で平均よりも早い梅雨入りが報じられ、しばらくは関東でも天気が崩れたものの、出荷自体は好調を維持し、やや単価安であった。取扱高は全体で見れば前年並みからやや減少傾向で推移した。果実に関しては、ハウスものの先取り商品が入り始めて出荷が増え、単価安で推移した。メロンの販売が最盛期を迎えているが、近年、JAや農家でのネット販売が増加し、店舗売りが主体の組合員にとっては逆風となっている。
商店街	筑西	新型コロナウイルスの影響による営業時間の制限により、売上が減少している。
サービス業	自動車整備	組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数(持込検査)は、前年同月比で普通車が106.6%、軽自動車が107.3%となり、普通車・軽自動車ともに増加となった。入庫台数は増加と言えるが、昨年は新型コロナウイルスの影響下での自粛により、入庫台数が減少していた。今年はその減少分が元に戻っただけであり、全体的には不変と捉えざるを得ない。
	ホテル・旅館	前年同月は、緊急事態宣言下の中、県央のビジネス系施設を除いては、殆ど休館を余儀なくされていた。今年のゴールデンウィークの宿泊実績は、人流抑制措置(緊急事態宣言やまん延防止等重点措置)の影響もあり、値引きプラン販売も思うような結果は見られなかった。しかしながら、県央のビジネスホテルでは、ひたち海浜公園のネモフィラや笠間の陶炎祭等の集客によって、僅かに上向き傾向となった。
建設業	総合	工事入札告示が増加した。前月はほとんど受注がなかったため、各社受注に懸命である。そのため、価格競争が激しい。当分の間はこの状況が続くものと考えられる。
	電気工事	全体的には前年同月とあまり変化はないが、地域により売上・収益等に差がある。
	型枠工事	前月に引き続き、茨城県内の建設業者は、前年度の事業を継続しながら、新年度の工事発注を待っている状態である。見積り物件は、少しずつ増えているので、期待が持てる状態になりつつある。

非
製
造
業

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会
令和3年5月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
非製造業	一軽貨物運送	当月の組合員数は118名、車輛台数は151台で前月と比較して増減なしとなった。また、運送売上高については、前年同月比101.2%であった。全国連合会での当月の組合員数は7,407名、車輛台数8,808台で前月と比較して23名減少、28台減少であった。
	県北地区一般貨物	主要顧客の動向の影響で、出荷物量は更に減少し、売上高も更に減少している。一方、燃料・資材価格は上昇し、収益は益々厳しい状況にある。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	学校給食パン	パン給食回数の増加を要望する。
	清酒	酒造業者はコロナ禍により重大な経済的被害を受けており、今後の経営存続に懸念が生じている。行政には、再度の持続化給付金等の財務支援の検討をして頂きたい。
小売業	県央地区共同店舗	コロナ禍による、消毒液などの消耗品経費もかさみ、大きな負担となっている。今後もいつまでも続くか分からない状況の中で、感染リスクが高い施設なので、コロナに関する感染防止対策費用など継続的な支援(補助金)を希望する。また、活用できる補助金の情報を教えて貰えるとありがたい。
	燃料小売	・新型コロナウイルスによる経営環境悪化に対する補償 ・揮発油税に課税している二重課税の廃止
建設業	総合	地元Aクラス(入札参加のクラス分け)以上に対する入札がほとんどで、B・Cクラスにはほとんど仕事がない。バランスよく発注して頂けるようご検討をお願いする。
	型枠工事	東京をはじめ、主要な都市に日本政府から緊急事態宣言が発せられている。その影響が、日本経済の衰退や国民の消費減少に繋がっているように思う。このような事態を吹き飛ばすような、画期的な経済対策を早急に実行して頂くことを望む。

月次景況調査 5月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	5月	4月	前月比	5月	4月	前月比	5月	4月	前月比
景 況	▲ 38.0	▲ 32.0	▲ 6.0	▲ 42.3	▲ 34.6	▲ 7.7	▲ 33.3	▲ 29.2	▲ 4.1
売 上 高	▲ 32.0	▲ 18.0	▲ 14.0	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 3.8	▲ 37.5	▲ 12.5	▲ 25.0
収 益 状 況	▲ 42.0	▲ 34.0	▲ 8.0	▲ 38.5	▲ 34.6	▲ 3.9	▲ 45.8	▲ 33.3	▲ 12.5
販 売 価 格	2.0	6.0	▲ 4.0	7.7	15.4	▲ 7.7	▲ 4.2	▲ 4.2	▲ 0.0
取 引 条 件	▲ 14.0	▲ 10.0	▲ 4.0	▲ 19.2	▲ 7.7	▲ 11.5	▲ 8.3	▲ 12.5	4.2

中小企業月次景況調査(令和3年5月)DI値(前年同月比)

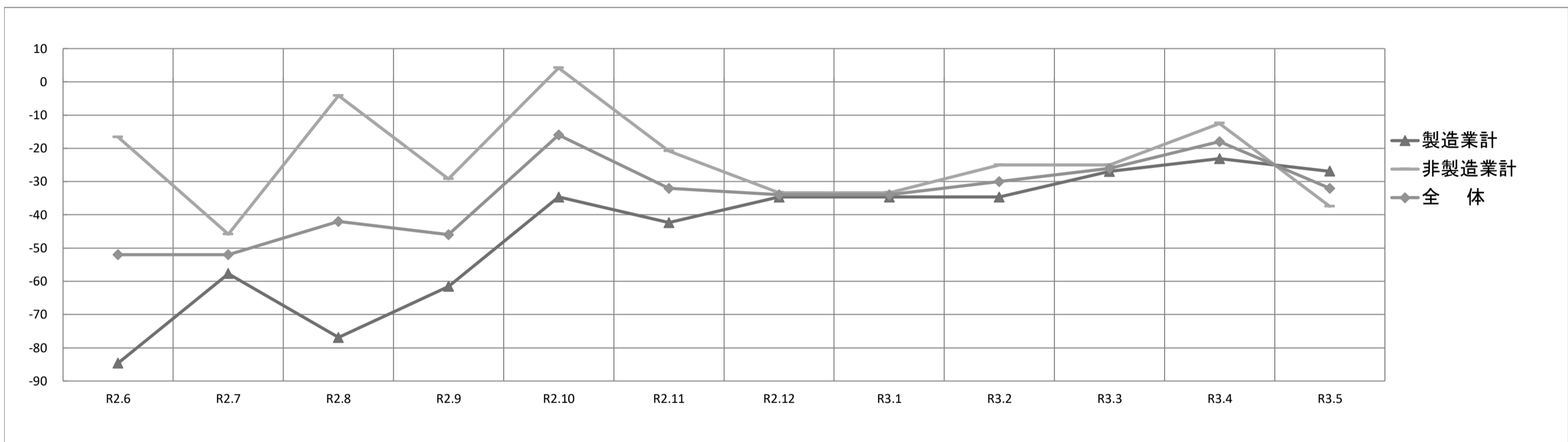
	売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況													
	DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)														
		増加	不変	減少	業界数		増加	不変	減少	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		増加	不変	減少	業界数	好転	不変	悪化	業界数							
製造業	食料品	△ 66.7	1	0	5	6	0.0	1	4	1	6	16.7	1	5	0	6	0.0	1	4	1	6	△ 50.0	1	1	4	6	△ 50.0	1	1	4	6	△ 33.3	1	2	3	6	0.0	1	4	1	6	△ 50.0	1	1	4	6
	繊維工業	△ 100.0	0	0	3	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3					
	木材・木製品	△ 100.0	0	0	3	3	△ 66.7	0	1	2	3	66.7	2	1	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 100.0	0	0	3	3					
	紙・紙加工品	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1					
	印刷	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	化学・ゴム	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	窯業・土石製品	△ 20.0	1	2	2	5	△ 20.0	0	4	1	5	20.0	1	4	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	1	3	1	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	△ 20.0	0	4	1	5	△ 40.0	0	3	2	5
	鉄鋼・金属	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	一般機器	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1
	電気機器	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	輸送機器	66.7	2	1	0	3	33.3	1	2	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	66.7	2	1	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
製造業計	△ 26.9	7	5	14	26	△ 7.7	2	20	4	26	7.7	4	20	2	26	△ 19.2	1	19	6	26	△ 38.5	3	10	13	26	△ 34.6	1	15	10	26	△ 11.5	5	13	8	26	△ 3.8	2	21	3	26	△ 42.3	3	9	14	26	
非製造業	卸売業	33.3	2	0	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3					0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	
	小売業 (商店街含む)	△ 58.3	1	3	8	12	△ 8.3	0	11	1	12	△ 8.3	1	9	2	12	△ 8.3	2	7	3	12	△ 58.3	0	5	7	12	△ 58.3	0	5	7	12					△ 8.3	0	11	1	12	△ 41.7	1	5	6	12	
	サービス業	△ 50.0	0	1	1	2					50.0	1	1	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2					50.0	1	1	0	2	△ 50.0	0	1	1	2		
	建設業	△ 20.0	1	2	2	5					△ 20.0	0	4	1	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	0.0	0	5	0	5					0.0	0	5	0	5	0.0	1	3	1	5		
	運輸業	△ 50.0	0	1	1	2					0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2					0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2		
	非製造業計	△ 37.5	4	7	13	24	△ 13.3	0	13	2	15	△ 4.2	2	19	3	24	△ 8.3	2	18	4	24	△ 45.8	0	13	11	24	△ 37.5	0	15	9	24					0.0	1	22	1	24	△ 33.3	2	12	10	24	
全体	△ 32.0	11	12	27	50	△ 9.8	2	33	6	41	2.0	6	39	5	50	△ 14.0	3	37	10	50	△ 42.0	3	23	24	50	△ 36.0	1	30	19	50	△ 11.5	5	13	8	26	△ 2.0	3	43	4	50	△ 38.0	5	21	24	50	

D I 値推移表 (R2. 6月 ~ R3. 5月期)

《売上高の推移》

前年同月比	R2. 6	R2. 7	R2. 8	R2. 9	R2. 10	R2. 11	R2. 12	R3. 1	R3. 2	R3. 3	R3. 4	R3. 5
食料品製造業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 66.7
製造業(食料品製造業以外)	▲ 90.0	▲ 55.0	▲ 70.0	▲ 60.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 15.0
製造業計	▲ 84.6	▲ 57.7	▲ 76.9	▲ 61.5	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 34.6	▲ 34.6	▲ 34.6	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 26.9
卸売業	50.0	0.0	50.0	25.0	100.0	25.0	▲ 50.0	▲ 25.0	0.0	▲ 50.0	100.0	33.3
小売業(商店街含む)	▲ 27.3	▲ 63.6	▲ 9.1	▲ 36.4	▲ 9.1	▲ 27.3	▲ 36.4	▲ 36.4	▲ 36.4	9.1	▲ 16.7	▲ 58.3
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	0.0	▲ 20.0	20.0	▲ 20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 20.0
運輸業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 16.7	▲ 45.8	▲ 4.2	▲ 29.2	4.2	▲ 20.8	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 37.5
全体	▲ 52.0	▲ 52.0	▲ 42.0	▲ 46.0	▲ 16.0	▲ 32.0	▲ 34.0	▲ 34.0	▲ 30.0	▲ 26.0	▲ 18.0	▲ 32.0

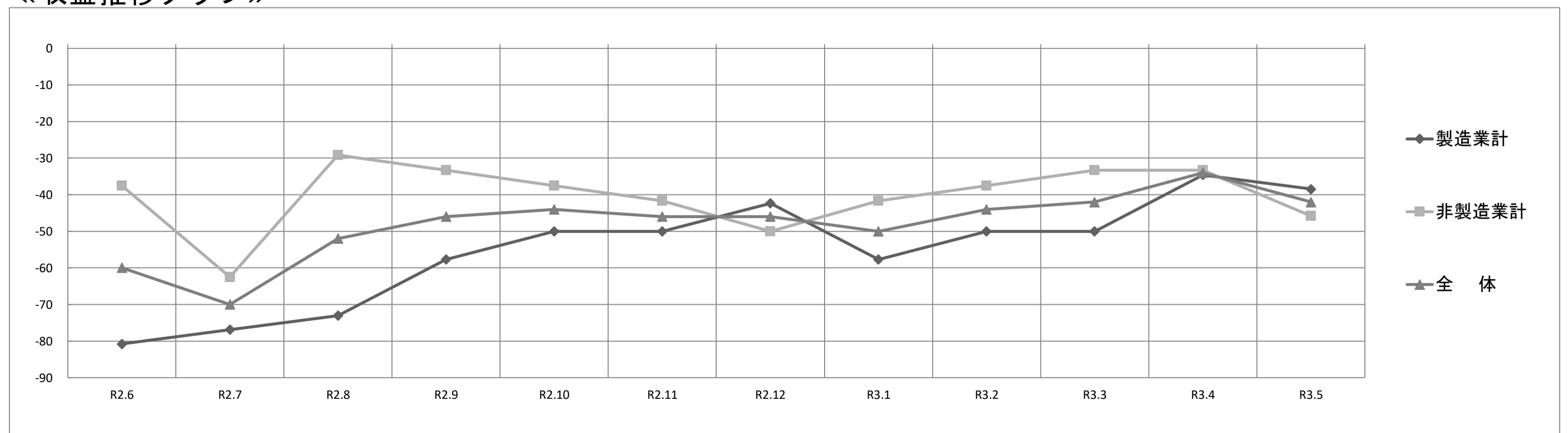
《売上高推移グラフ》



《収益の推移》

前年同月比	R2. 6	R2. 7	R2. 8	R2. 9	R2. 10	R2. 11	R2. 12	R3. 1	R3. 2	R3. 3	R3. 4	R3. 5
食料品製造業	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
製造業(食料品製造業以外)	▲ 80.0	▲ 85.0	▲ 80.0	▲ 65.0	▲ 40.0	▲ 50.0	▲ 35.0	▲ 55.0	▲ 45.0	▲ 50.0	▲ 30.0	▲ 35.0
製造業計	▲ 80.8	▲ 76.9	▲ 73.1	▲ 57.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 42.3	▲ 57.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 34.6	▲ 38.5
卸売業	25.0	▲ 25.0	25.0	50.0	50.0	25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	25.0	▲ 25.0	33.3	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 63.6	▲ 90.9	▲ 45.5	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 72.7	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 36.4	▲ 41.7	▲ 58.3
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	0.0	▲ 20.0	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0	▲ 20.0	20.0	0.0	0.0	▲ 40.0	▲ 20.0
運輸業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 37.5	▲ 62.5	▲ 29.2	▲ 33.3	▲ 37.5	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 37.5	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 45.8
全体	▲ 60.0	▲ 70.0	▲ 52.0	▲ 46.0	▲ 44.0	▲ 46.0	▲ 46.0	▲ 50.0	▲ 44.0	▲ 42.0	▲ 34.0	▲ 42.0

《収益推移グラフ》

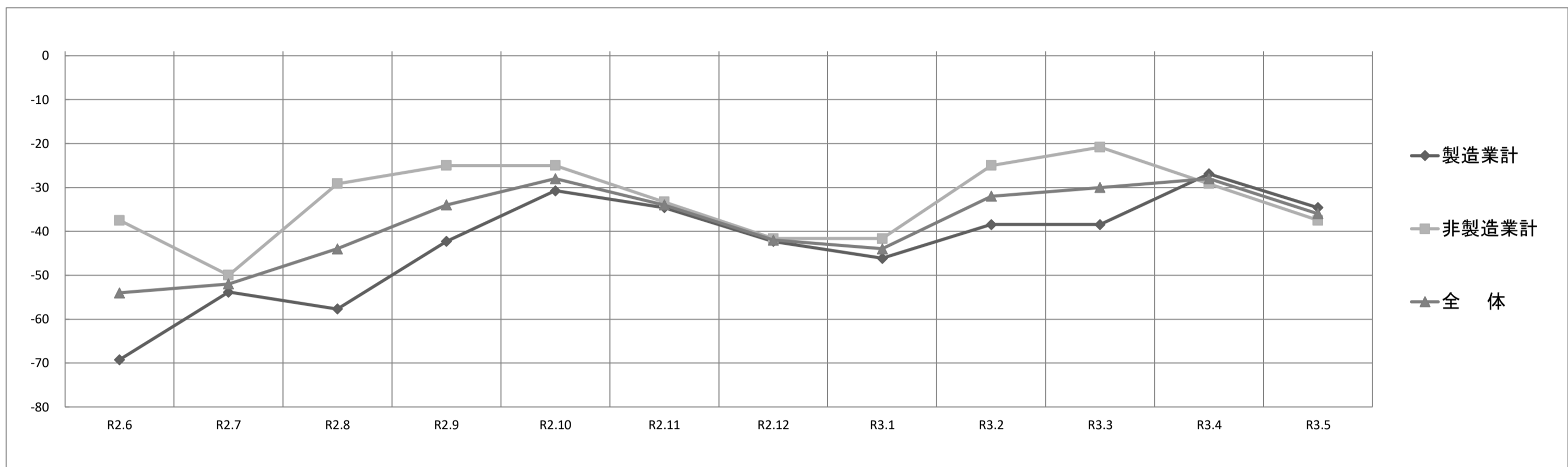


D I 値推移表 (R2. 6月 ~ R3. 5月期)

《資金繰りの推移》

前年同月比	R2. 6	R2. 7	R2. 8	R2. 9	R2. 10	R2. 11	R2. 12	R3. 1	R3. 2	R3. 3	R3. 4	R3. 5
食料品製造業	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 50.0
製造業(食料品製造業以外)	▲ 65.0	▲ 60.0	▲ 55.0	▲ 45.0	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 25.0	▲ 30.0
製造業計	▲ 69.2	▲ 53.8	▲ 57.7	▲ 42.3	▲ 30.8	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 46.2	▲ 38.5	▲ 38.5	▲ 26.9	▲ 34.6
卸売業	25.0	▲ 25.0	25.0	50.0	50.0	25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	25.0	▲ 25.0	33.3	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 72.7	▲ 81.8	▲ 54.5	▲ 54.5	▲ 54.5	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 45.5	▲ 18.2	▲ 41.7	▲ 58.3
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0
非製造業計	▲ 37.5	▲ 50.0	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 29.2	▲ 37.5
全体	▲ 54.0	▲ 52.0	▲ 44.0	▲ 34.0	▲ 28.0	▲ 34.0	▲ 42.0	▲ 44.0	▲ 32.0	▲ 30.0	▲ 28.0	▲ 36.0

《資金繰り推移グラフ》



《景況の推移》

前年同月比	R2. 6	R2. 7	R2. 8	R2. 9	R2. 10	R2. 11	R2. 12	R3. 1	R3. 2	R3. 3	R3. 4	R3. 5
食料品製造業	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
製造業(食料品製造業以外)	▲ 80.0	▲ 75.0	▲ 70.0	▲ 60.0	▲ 25.0	▲ 45.0	▲ 30.0	▲ 55.0	▲ 35.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 40.0
製造業計	▲ 80.8	▲ 69.2	▲ 65.4	▲ 57.7	▲ 38.5	▲ 50.0	▲ 38.5	▲ 57.7	▲ 38.5	▲ 34.6	▲ 34.6	▲ 42.3
卸売業	0.0	▲ 50.0	0.0	0.0	25.0	25.0	▲ 50.0	▲ 50.0	50.0	▲ 25.0	0.0	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 72.7	▲ 72.7	▲ 45.5	▲ 54.5	▲ 54.5	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 54.5	▲ 45.5	▲ 18.2	▲ 25.0	▲ 41.7
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	▲ 20.0	0.0	0.0	▲ 40.0	▲ 40.0	0.0
運輸業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 37.5	▲ 29.2	▲ 33.3	▲ 54.2	▲ 45.8	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 29.2	▲ 33.3
全体	▲ 62.0	▲ 60.0	▲ 50.0	▲ 48.0	▲ 34.0	▲ 42.0	▲ 46.0	▲ 52.0	▲ 32.0	▲ 34.0	▲ 32.0	▲ 38.0

《景況推移グラフ》

